

ながいずみ お散歩 ジオマップ



ジオとはギリシャ語で「地球」や「大地」を意味する言葉です。火山でできた伊豆半島一帯は、地球科学の見地から重要とされる地層・岩石・地形などを貴重な自然遺産と考え、保護と活用を図る「ジオパーク」に認定されています。このマップでは、長泉町中心部のジオポイント（ジオパークを構成する自然・文化的な見どころ）を紹介しています。皆さん是非このマップを片手に長泉町内をお散歩して、自然景観やそれと関わる文化景観に触れ、ジオを体感してみてください。このマップに載せた場所以外にも、長泉町内には「水神社」や「つるべ落としの滝」などのジオポイントがあります。それらの場所に足を延ばしてみるのもいいですね。

【参考資料】

「活火山 富士山がわかる本」(ウェブ版、静岡大学総合防災センター)、「長泉町ふるさとカルタガイドブック」(ながいずみ観光交流協会)、「甦った原分古墳」(長泉町教育委員会)、伊豆半島ジオパークウェブサイト、グラウンドワーク三島ウェブサイト

ながいずみ お散歩 ジオマップ

作成：沼津工業高等専門学校

2014年度「ミニ研究」ジオパーク班
長島右京・磯崎智貴・佐藤経雄
(指導教員) 佐藤崇徳

鮎壺の滝

あゆつぼのたき



鮎壺の滝は、黄瀬川の本流にかかる高さ9mの滝です。約1万年前の富士山の噴火による三島溶岩流の側端にできたもので、滝の裏側には溶岩樹型も見られます。溶岩の間から流れ落ちる滝と奥に見える富士山が絶景であることから「富士見の滝」とも呼ばれ、県の天然記念物に指定されています。映画「少林少女」(2008年)や「七人の侍」(1954年)のロケ地にもなりました。滝壺が藍色をしていたため「藍壺の滝」と呼ばれ、それが訛って「鮎壺の滝」となった説と、鮎が多くいたことから「鮎壺の滝」となった説があります。

牛ヶ淵

うしがふち



牛ヶ淵は黄瀬川の本流にかかる広い淵がある滝です。通称「納米里(なめり)の滝」とも呼ばれています。この滝は過去の富士山の噴火による溶岩流の端にできた落差2~3m程の小さな滝です。侵食が進みほとんど滝の形をなしていませんが、川幅、淵の広さは滝の規模として比較的大きなものです。この淵には悲しい伝説があります。ある豪雨の夜、長久保城が武田軍に攻められ落城してしまいました。城の萩姫は、数人の兵士や乳母に守られ牛車で城を抜け出しましたが、濁流渦巻くこの淵に牛車もろとも転落し命を落としてしまったと伝えられています。

鎧ヶ淵

よろいがふち



鎧ヶ淵は黄瀬川の本流にかかる幅10m、落差3mの滝です。富士山麓に見られる特徴的な滝のでき方で、富士山の溶岩の段差により滝が形成されたものです。この鎧ヶ淵には伝説が残っています。戦国時代、長久保城をめぐる激しい戦いがありました。城は落城してしまい、兵士たちはこの淵を渡って逃げようとしたのですが、鎧を着ているため泳いで渡ることができず、沈んで命を落としていったそうです。また、血に染まった鎧や刀を洗ったり、激戦で使用不能になった鎧を沈めた淵であるともいわれています。

割狐塚稲荷神社

わりこづかいなりじんじゃ



1万年前の富士山の噴火によって流れた三島溶岩の溶岩塚という地形の上に建てられた神社です。溶岩塚とは、噴火で流れた溶岩流の表面が固まり始めている時に周りの溶岩に圧迫され、押し上がり小さな丘となったものです。かつてこの周囲には多数の溶岩塚がありましたが、多くは造成工事によって取り去られてしまいました。現在残る溶岩塚はこの神社だけです。この溶岩塚は高さ5m程度あり、ドーム状になっています。また、放射状の亀裂ができており、亀裂の内部に小道が作られていて歩けるようになっています。この神社は古くからこの場所にあり、一説には寛永元年(1624年)にできたと言われています。

原分古墳

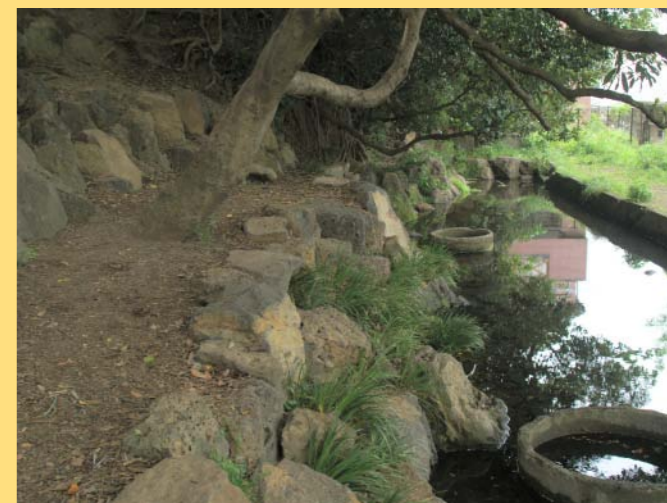
はらぶんこふん



原分古墳は7世紀に作られた直径16mの円墳で、古墳時代後期の横穴式石室としては静岡県東部で最大規模の石室を有しています。現在は道路建設のため解体調査をした上で、もとの位置から数十m南東の場所に移築復元されています。石室の石には鮎壺の滝などでも見られる富士山の溶岩が使われています。石室からは金銅装の馬具や太刀飾り、須恵器が多く出土しました。石棺には「伊豆石」と呼ばれる沼津市静浦の海岸で採取された凝灰岩(火山灰が降り積もって固まってできた岩石)が使用されています。長泉町内にはかつて多くの古墳がありました。原分古墳の脇には、近くの別の古墳の石棺も展示されています。

窪の湧水

くぼのゆうすい



窪の湧水は、段丘崖の下部から湧き出ている湧水です。この段丘崖は約2900年前に発生した富士山の山体崩壊に伴う泥流堆積物を、その後黄瀬川が侵食することで形成されました。1854年の安政東海地震により湧水が始まったとされています。かつては農業用水として利用され、1918年には近接する製紙会社がこれを取水して操業を開始しました。現在では地元の企業・住民・NPOが協働し、ホタルなどの生き物のすみかに適した整備を進めています。

長泉おさんぽ GEO マップ

～おすすめウォーキングコース～

南コース

稲荷神社 → 原分古墳 → 窪の湧水

北コース

鮎壺の滝 → 鎧ヶ淵 → 牛ヶ淵



牛ヶ淵

【牛ヶ淵】
牛ヶ淵は広い淵がある滝です。落差は2~3m程の小さな滝です。現在はほとんど滝の形をしていません。

鎧ヶ淵

【鎧ヶ淵】
幅10m、落差3mの滝。特徴的な滝のせき方をしています。雨が降るとすごい迫力!!

鮎壺の滝

【鮎壺の滝】
黄瀬川にかかる高さ9mの滝。滝のすぐ側まで近づくことができ、迫力満点です!!

稲荷神社

【稲荷神社】
富士山の噴火によって流れた三島溶岩の上に建てられた神社。たぐさのある鳥居は幻想的な雰囲気をかもしだしています。

原分古墳

【原分古墳】
7世紀に作られた円墳で直径16mとこの辺ではなかなか大きな古墳です。

窪の湧水

【窪の湧水】
段丘崖からの湧水はとて冷たく透明度が高いです。夏にはホタルも見ることが出来ます。

ジオサイトへ行こう!!



至新富士駅

至大岡駅

至沼津駅